

一歩が熱い想いに 土屋 賢太郎さん



神奈川大学4年
現在は、学生が活動の一歩を踏み出すきっかけづくりを目標に、さまざまな活動をされています。

きっかけは、先生との出逢い

最初にボランティアに魅力を感じたのは、高校生のときでした。当時通っていた塾の先生から聞いたボランティアの話がきっかけでした。その先生は大学生で、学校のサークルでボランティアをされていました。当時僕のボランティアのイメージは、「海外に行って井戸を掘る」や「専門的な知識がいる」という、簡単にはできない敷居の高いものでした。しかし、その先生が話してくれたのは「地域の事」や「社会福祉」の身近な事からできる活動の話でした。そして、とても楽しそうにその話をしてくれたのです。その話を聞いて、「大学に入ったら何かしらボランティア活動をやってみよう！」そう思いました。

また、もう一人の塾の先生の存在も大きいです。僕は受験の結果第一希望の学校に行けず、違う大学へ進むことになりました。その時の僕は「この大学に行っちゃって。」となにもやる気が出なくなっていました。そのとき、「どこに行くかも大事だけれども、そこで何をやるかのが大事なんだよ。」そう言ってくれました。

この先生は受験のときに行きたい大学に行けず、他の学校でひたすら努力して第1希望の学校に編入した人で、その経験を踏まえての言葉でした。この言葉で、「この学校でやりたい事をガッツリやろう！」そう思うことができました。

出逢いがなかったら、今ここにいないかもしれません。活動を始めた大きなきっかけは2人との出逢いにあっただと思っています。

学生団体 INTERFACE

「学生団体 INTERFACE」は、2011年7月にできたばかりの団体です。何かアクションを起こしたいという学生が、刺激し合えるきっかけをつくりたい。そんな思いから立ち上げられました。人と人とのつながりをつくることを目的として、東京や神奈川など6、7大学がメンバーとし関わり、活動をしています。

「つなげる」「楽しむ」「成長する」この3つをポリシーとし、今年3月には1000人規模でイベントを開催するなど、さまざまな企画を進めています。所属する学生にとっても、お互いに熱い想いをぶつけられる大切な場となっています。

参加者から担い手に

始めて入団した団体は、大学のボランティアサークルでした。その団体はさまざまなボランティアができる団体であり、地域に出て活動をしていました。

2009年にはみなとみらいの花火大会の清掃活動をする「クリーン大作戦」という活動で、自分たちの活動を楽しそうにする人達に出会いました。

その人たちは自分たちの活動に誇りを持っていて、すごく楽しそうで魅力を感じました。

それと同時に、自分が受け身の姿勢で活動をしていることが悔しいと思いました。もっと、自分の活動に誇りを持ち、輝きたい。「楽しい!」と自信を持って言える活動をやっていきたいという気持ちになりました。

何か自分も熱い気持ちで活動を創り上げたいという思い、その後、その団体で「Cange JINDAI!2010」という参加者数150人ほどのイベントの立ち上げに携わりました。これは神奈川大学周辺のゴミ拾いをするイベントです。ゴミ拾いをやったことがない人も、これをきっかけにして社会の問題などを考えてもらいたい。アクションを起こすためのきっかけにしてもらいたいというものです。イベントは成功しましたが、これでは納得いきませんでした。休学して、「もっといろんなことをやりたい」と思いました。

休学の間は、他の団体のイベントや、異国の地に足を踏み入れました。その後、強い想いを持って「INTERFACE」の立ち上げに携わり、今につながっています。

熱い想いを伝えたい

協賛企業へのお願いは大変で、理解してもらえないこともたくさんあります。想いが伝わらないことも多く、どうしたら想いが伝わるか、いつも考えています。

また、協賛企業だけでなく、参加者の方々、この活動に、そして自分自身に協力してくださる方々に「参加して良かった」「協力して良かった」と言ってもらえるように、たった1日のためですが、想いを持って何カ月もかけて創っています。日を重ねることで、想いもふくらみ、もっとさまざまな面から応援してもらえるような団体にしたいと思います。

でも、熱い想いだけではやっていけません。考えなくてはならないことも多いですし、難しい問題に立ち向かうこともあります。そんな中、仲間と本気で話しながらふっと誰かから面白いアイデアが出て、皆がそのアイデアにワクワクする時がすごく楽しいです。一人ひとりがもっているものを積み上げていくおもしろさがあり、「こ



<INTERFACE 活動の様子：集合写真>



<INTERFACE 会議の様子>

うすればうまくいく！」と道が見えてきたときそれを一人でなくて、仲間と一緒に感じられる喜びがあります。もちろん不安もありますが、それから目をそらさずの一つ一つ丁寧に向き合って解決していくことで、良いイベントが生まれていくと思っています。

アクションを起こせたという参加者の声

イベントを創る上で、思ったよううまくいかないときは大変ですし、やらなくてはいけないこともたくさんあります。イベントをつくっているときや、運営しているときは参加してくれる方々に「参加して良かった」と喜んでもらえるように、自分たちの思いが伝わるようにとがむしゃらにやっています。イベント直後は、達成感もありますが、それ以上に反省や、やりきれない悔しい気持ちが大きいです。

ですが、後日、イベントに参加した方の声やその後を知ることがあります。「あのイベントで何かが生まれた。」「イベントをきっかけに、アクションを起こした。」という話を聞いたときなど、参加者の良い変化に出会えたときが一番嬉しいです。



<INTERFACE 活動の様子：集合写真>



<INTERFACE 活動の様子>

仲間とつくっていくこと

学生団体では、メンバーと乗り越えていくことも大切なことだと思います。「学生団体 INTERFACE」は出来たばかりの団体ですが、メンバー同士の絆も深まっていき、いろんな大学から集まった一人ひとりが、仲間になっていける場となっています。それはみんなで同じ目標に向かい、本音で語り合いながら本気でつくっていけるということが、とにかく楽しいからです。

そうは言っても準備は一人でやる仕事もたくさんあります。そんなときは、モチベーションを保つのが大変ですが、みんなでつくっているものだと思うことで、また頑張れています。大変ですが、プレッシャーを感じるからこそ、新しいものが生まれてくるようにも思います。

ここは譲れない！と、メンバーがこだわった部分を参加者が見ていてくれて嬉しかったこともあります。それを一人でなく、みんなで共有できることが喜びです。

「やろう！」という声に賛同してくれる仲間が今ここにいます。

日々の活動が、担い手づくり

活動の担い手づくりの場を作っているのです、毎日が担い手づくりのようなものです。まだ活動をしたことがない人にも、やっぱり一緒に活動してみしてほしい。大きく構

えずに、一回やってもらい、興味を持ってもらえたら嬉しいです。

また、周りの人を巻き込むには、自分たちが楽しそうに活動していることが重要だと思います。自分たちが楽しむことを原動力にして、みんなで何かをつくっていくことの楽しさをのどことん伝えていきたいなと思います。

僕は一歩踏み出すことで、社会の問題や、自分には関係ないと思っていたことが身近になりました。社会に関心を持つきっかけにもなると思います。秋には、石巻に行きましたが、自分の目で見られたことで、より一層他人のことという意識ではなくなり自分たちのことと同じように考えられました。一歩踏み出すことで、そういう思いが強くなると改めて感じました。その思いが生まれる場をつくっていきたいという気持ちが高まります。

心からやってよかったと思えるイベント

イベントをつくっていて、苦しいときもあります。以前、あるイベントの後にスタッフの集まりで、ある人がこう聞きました。「もう一回やりたいですか？」その質問にほとんどのスタッフが手を挙げてる中、スタッフの中でも特に頑張っていた仲間が手をあげられない姿を見たことがありました。それを見るのが、悔しかったです。その時、「このままじゃダメだ。」頑張った人ほど「やってよかった！またやりたい！」と思いきり手を挙げられる、そういうイベントをつくってきたいと思いました。

ゴミ拾いは、誰でもどこでもできます。それをきっかけにして、そこからアクションを起こしたり、その第一歩が広がりにつなげていくのかもしれない。出逢うことで、人は本当に変わるのだなと、自分の経験を通して思います。

自分は、人と出逢ったことで変わりました。だから、まだ踏み出せていない人にも、人と出逢うことで、何かアクションを起こしてもらえたら嬉しいと思います。だから、このような団体に活動をし、担い手を増やしていきたいと思っています。

一歩が、自分が変わるきっかけに

今は、積極的に活動していますが、自分にも一歩を踏み出せないときがありました。何かやりたい。そうは思っていたんですが、一歩が踏み出せませんでした。

でも、一歩踏み出したあとに、一歩を踏み出せないでいた時間がもったいなかったと感じました。一歩を踏み出すことはとても勇気が必要です。一歩を踏み出してみて違うと思たら、やめればいいし、失敗しても、その失敗をきちんと反省し、次に活かせば絶対に無駄にはならないと思います。

だから、これから一歩を踏み出したいと思っているたくさんの人たちを、自信を持って後押ししたいと思います。自分は、一歩を踏み出してよかったと思っているので、もっと一緒に活動してくれる仲間が増えてくれたら嬉しいです！

一歩は、自分が変わるきっかけになると信じているからです。

編集後記 担い手づくり、人と人とのつながりづくりを目的に活動されているだけあって、取材中、常に笑顔で、言葉のひとつひとつに気をつかわれている姿がとても印象的でした。お話のなかにも「楽しい」という言葉と「悔しい」という言葉が聞かれ、常に高い理想を持って活動されていることが伝わってきました。

◆団体概要 **学生団体 ENTERFACE** <http://ameblo.jp/enterface/>

「全ての人々が夢・目標を持っている社会を創る。」これを理念とし活動しています。学生に「出会い」を通じて一歩を踏み出すキッカケとなる場を提供しています。